

パネルディスカッション

経営層と情報システム部門の 管理職とのギャップは何か

～経営現場、情報システム現場双方の本音トークから、
これからの情報システムの「やるべきこと」を徹底討論～

アジェンダ

- パネルディスカッションメンバー紹介
- ディスカッション
 - 意見交換：情報システムに関わる悩み
 - 運用と企画開発
 - 経営と現場
 - ギャップを埋めるためには

パネルディスカッションメンバー

【モデレーター】

システム管理者の会 オブザーバー

「システム管理者の眠れない夜」(技術評論社)著者

柳原 秀基 氏

【パネラー】

エグゼクティブフォーラム座長

PFUライフエージェンシー株式会社 ITサービス事業部

小玉 稔 氏

ヤマトホールディングス株式会社 執行役員

小佐野 豪績 氏

大成ロテック株式会社 常勤監査役

木内 里美 氏

株式会社京阪ビジネスマネジメント 情報システム事業部 課長

馬場 康弘 氏

モデレーター紹介

柳原 秀基

Twitter : @Hide3 / Facebook : Hideki Yanagihara

- 1979年 久保田鉄工株式会社(現:(株)クボタ)に入社。製造管理、設備管理を経て、生産管理システムやSCMシステムの構築・運用に従事。
- 1994年 Windows Server World誌を中心に、システム管理者の生態を綴るエッセイ「システム管理者の眠れない夜」を執筆。2000年から単行本化を続ける。
- 1997年 ユーザグループ NT-Committee2 による勉強会を開催
- 2003年 大阪市立大学大学院へ進学
PCネットワークの管理・活用を考える会 分科会座長
- 2006年 大学非常勤講師
(大阪成蹊大学、帝塚山大学、近畿職業能力開発大学校)
- 2007年 システム管理者の会、オブザーバ
- 2008年 (株)エスアールアイ、顧問

情報社会論、リスク社会論に夢中

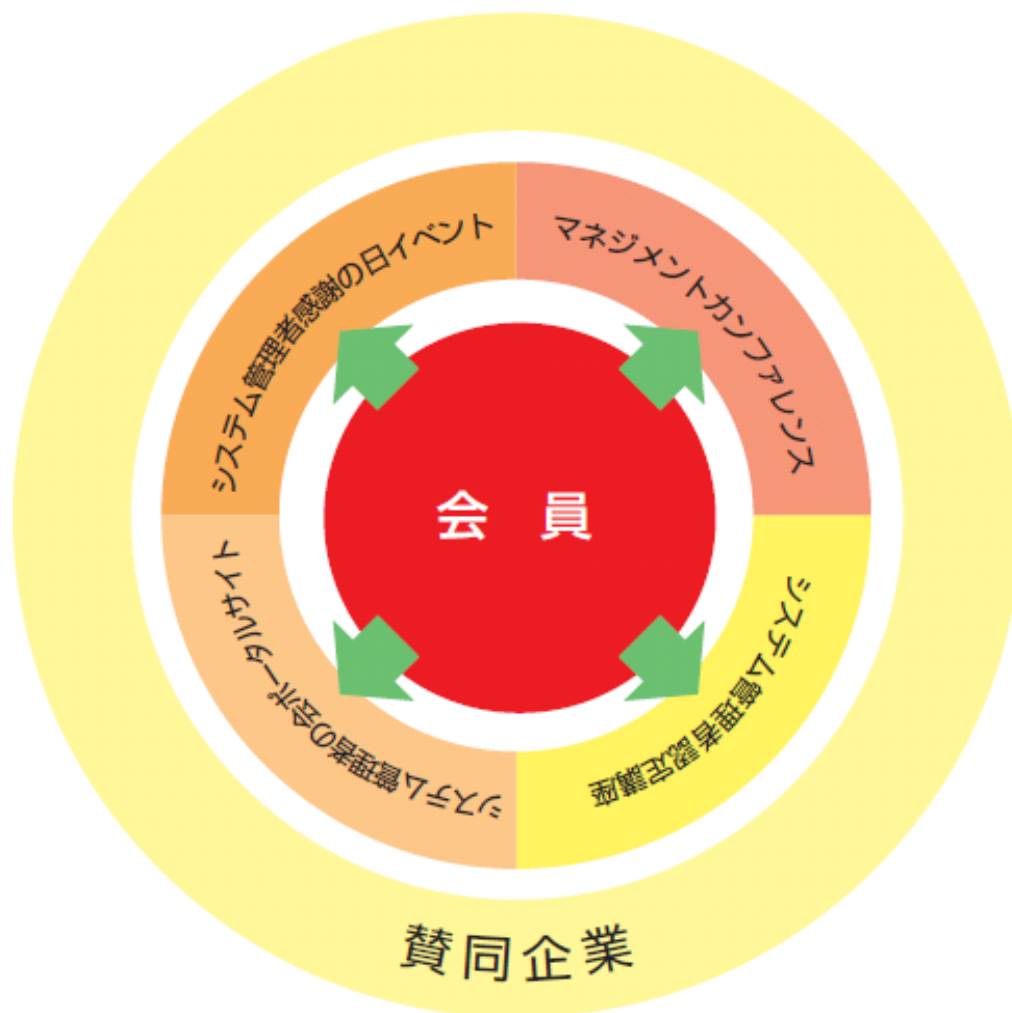




新規個人会員・賛同企業 募集中！



入会登録費、年会費無料です

システム管理者の会は、ITシステム運用を支える全ての人を応援します。

システム管理者の会は、国内約80万人と言われているシステム管理の職に就かれている人が、生き生きと働き、会社や社会に貢献できるように、地域、企業、立場にとらわれない情報交換の機会を設け、システム管理者の技術向上や知識の習得に役立てていただける企画を打ち出しています。

将来、システム管理者を目指す若い方が憧れるような、ポジションやキャリアの創造を目指します。



入会登録費、年会費無料です

●システム管理者認定講座



ヒューマンスキルやITサービスマネージャー資格に準拠したテクニカルスキルが身に付きます。受講料はテキスト代のみ！毎回満員です！

●システム管理者感謝の日



毎年300名以上が参加するシステム管理者感謝の日イベント。企業とのコラボやゲスト出演などリフレッシュできるコンテンツがいっぱい！

●マネジメントカンファレンス



システム運用管理部門の管理職者を対象に、旬のテーマで講演やパネルディスカッションを実施！
第1回:ITIL
第2回:クラウド
第3回:メンタルヘルス・マネジメント

●システム管理者の会ポータルサイト



会員の方が、日々楽しめるコンテンツがたくさん！テクニカルノウハウやスキルアップの情報収集から、会員同士のコミュニティ作りまで広く活用できます！

パネラー紹介①

小佐野 豪績 氏

ヤマトホールディングス株式会社 執行役員

ヤマトホールディングス株式会社執行役員として、事業戦略・IT戦略担当している。1988年4月、ヤマト運輸に入社。宅配サービスの現場業務やシステム業務に従事し、2003年6月に情報システム課長に就任。その後、関連会社であるヤマトリースやボックスチャーター社長を歴任。2010年4月から、ヤマトホールディングス執行役員を務めている。

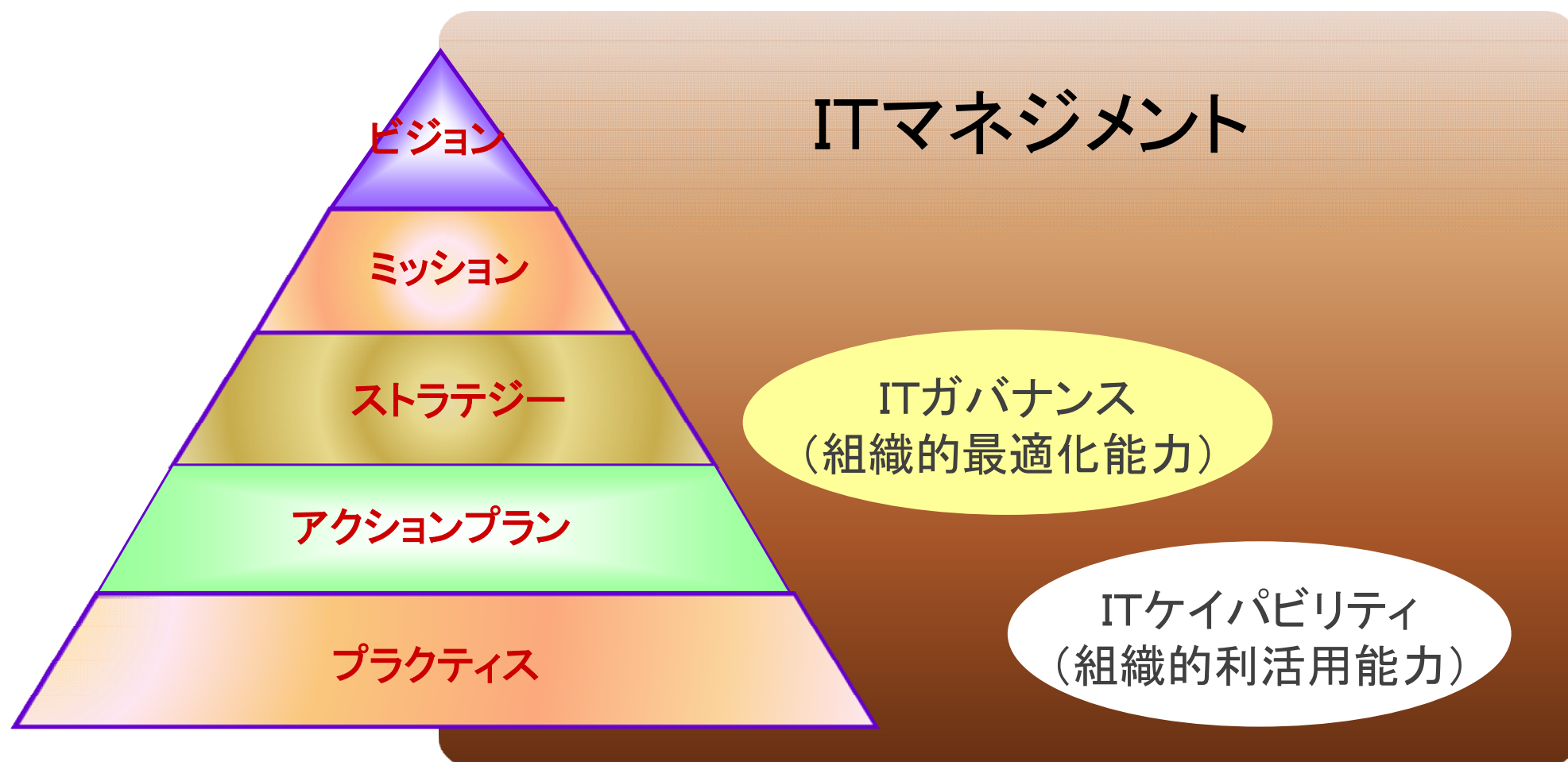
パネラー紹介②

木内 里美 氏

大成ロテック株式会社 常勤監査役

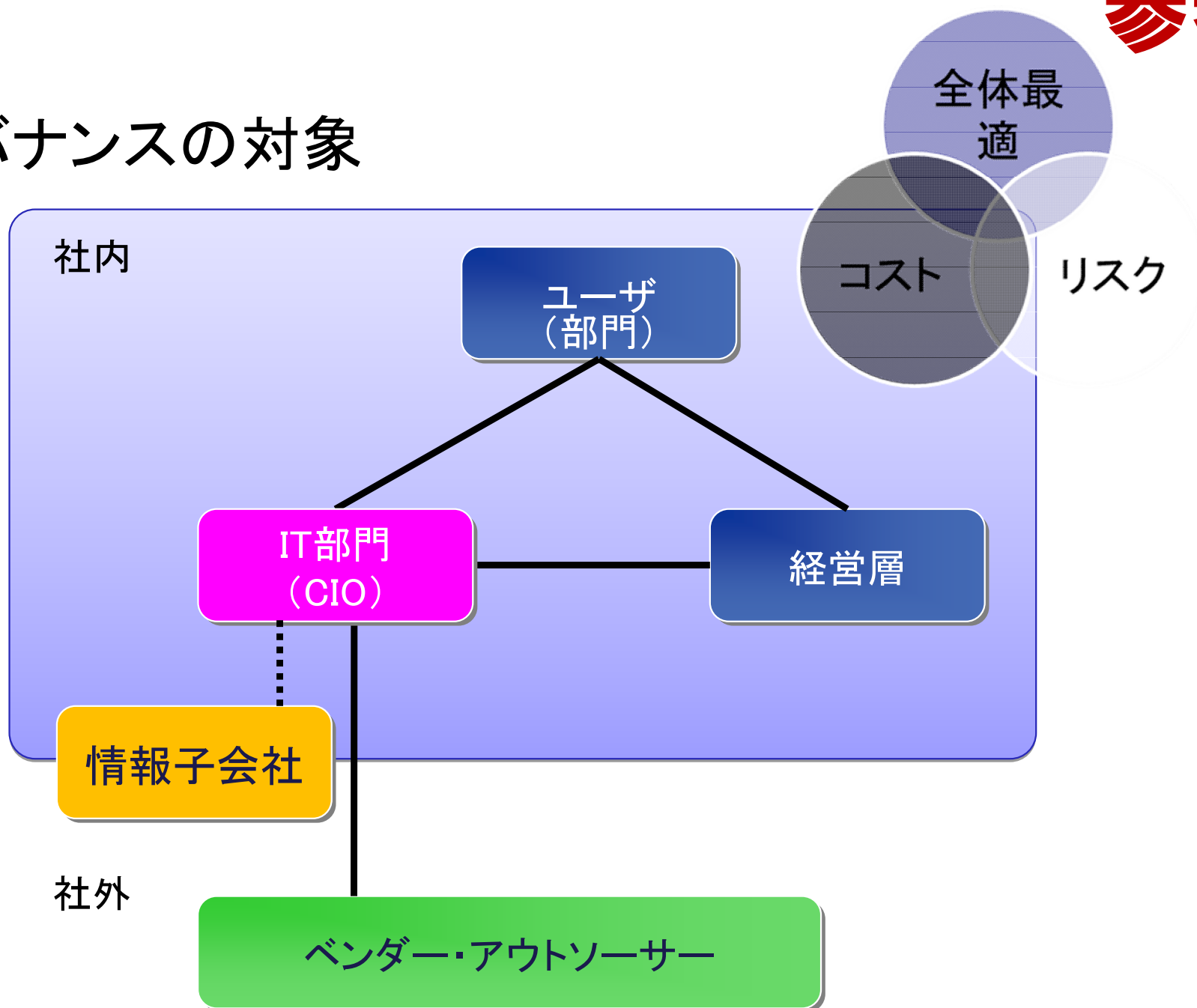
大成ロテック株式会社 常勤監査役。1969年に大成建設に入社。
土木設計部門で港湾などの設計に携わった後、2001年に情報企画部長に就任。
以来、大成建設の情報化を率いてきた。
講演や行政機関の委員を多数こなすなど、CIOとして情報発信・啓蒙活動に取り組む。

ITガバナンスとITマネジメント



参考

ITガバナンスの対象



パネラー紹介③

小玉 稔 氏 / エグゼクティブフォーラム座長

PFUライフエージェンシー株式会社 ITサービス事業部

1985年、中途採用でPANAFACOM（PFU の前身）に入社。社内では少数派のCOBOL ユーザとして、フィールドSE業務を担当。

その後は、主として、業務アプリケーションの開発／サポートを担当。

- ・ インク工場向けの生産管理システム
 - ・ 化学工場向け実績管理システム
 - ・ 鉄骨加工業向け原価管理システム
- 等

社内向けWeb ベースシステムの開発等を経て、現在は、社内のSE向け損益管理システムの運用管理を担当。

パネラー紹介④

馬場 康弘 氏

**株式会社京阪ビジネスマネジメント
情報システム事業部 課長**

1990年京阪電気鉄道株式会社に入社。1995年より情報システム部門にて社内情報システムの構築、運用などを担当。2003年より情報戦略部門にて顧客情報システムの導入と情報セキュリティポリシー構築に従事。

2006年より株式会社京阪ビジネスマネジメントに出向し、SAPを用いた経理システムの電鉄本体への導入とその後のグループ会社への展開を行うほか、情報セキュリティ専門委員会の事務局を担当している。

パネルディスカッション

経営層と情報システム部門の 管理職とのギャップは何か

経営層の想い

- 情報システム部は経営に役立つはず（たぶん）
- 経営層の全社的視点を、情報システム部にも持ってほしい！
- 他社の情報システム導入事例を見て心が動いたことがある
- わが社のシステムは適切なコストに見合った効果を上げているのだろうか？ 確信が持てない
- 運用コストを下げようとする「止まっても責任を取れない」と脅迫される

情報システム部管理職の想い

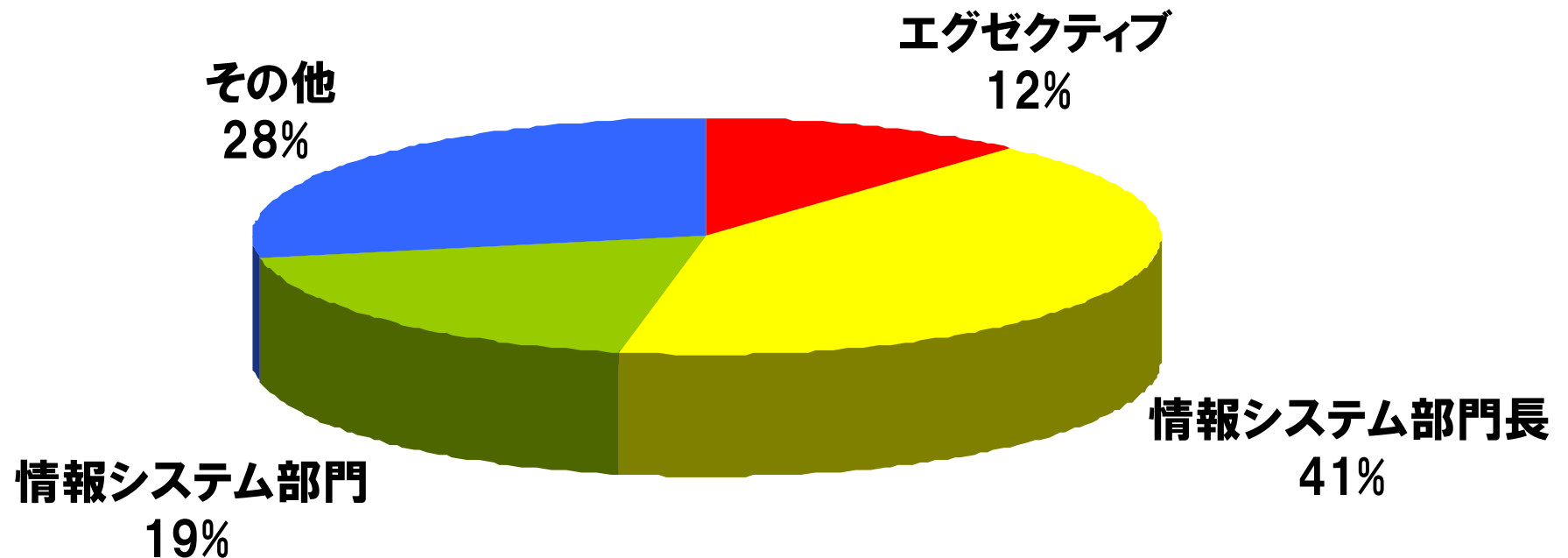
- 全社的に横串を入りたいが、パワーが足りない！ 予算も人材も足りない！
- どんなシステムであるべきか？トップの想いが伝わってこない
- コストセンターと見られていて、モチベーションが低下している
- 現有するシステムの運用ノウハウは貴重な財産！でもこのシステムをずっと使い続けられるとは思っていない

CIOと情シス現場の乖離

	CIOの悩み	現場の悩み
情報システムの運用	コストを下げたい 外に出せないか	現場に翻弄 例外処理だらけ
情報システムの企画・開発	どんなトレンドを信用すれば良いか分からない	現状技術を捨てられない 勉強する時間が無い

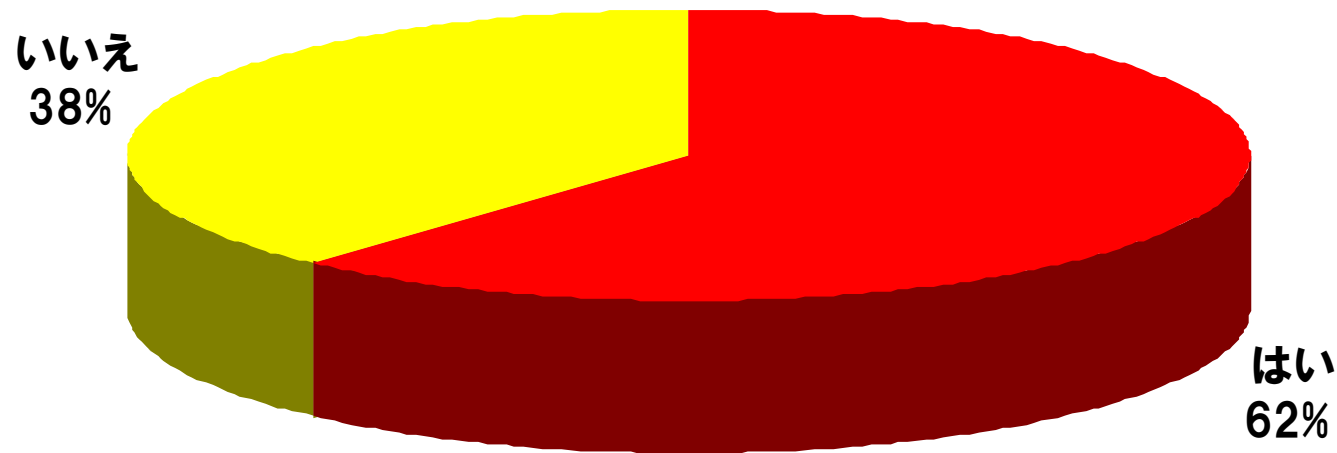
申込み時アンケート結果①

【Q1】社内でのお立場は？



申込み時アンケート結果②

【Q2】企業の情報システム運用管理について、現場と経営層でギャップを感じたことはありますか？



申込み時アンケート結果③-1

【Q3-1】Q2で「ある」とお答えの方

どのような場面でギャップを感じましたか？

- 経営層のセキュリティ方針が現場に徹底されない。
- 現場で把握しているセキュリティ・リスクが経営層に反映されない。
- 経営サイドが考える情報システムは安くて有用なものであるが、それを、実現するには容易ではない。また、それを実現したとしても、社員に受け入れられず、必ずしも正確なデータと言えない場合もある。
- 100名規模の会社では、情報システムの稟議申請や事業計画に関する経営層の理解度が低いように感じる。
- 重要性の認識の違いから、必要な予算が取りづらい
- 情報システム部門はコストセンターであるがために、なかなか、効果がわかりにくいところがある。
- 社長の経営方針と社内のシステム計画がリンクしていない。社内のシステムの現状を役員が理解してくれない。
- 経営層の悩み、現場の悩みの両方をお聞きしたとき
- 投資対効果のギャップ
- 現場の課題が経営層に理解されない
- こちらの説明不足もあると思いますが、ITに対する理解が浅い。
- 当社は基幹システムが古く(30年前に構築)業務の実情とあっていないものが多々あるが、経営層はその実情を理解していない。
- 戦略にたいする戦術のGAP
- 生産性と品質向上の両立においてのギャップ

申込み時アンケート結果③-2

【Q3-2】Q2で「ある」とお答えの方 どのような場面でギャップを感じましたか？

- 社長と今後の情報システムのあり方について議論しているとき。
- 初期コストばかりが注目され、運用コストが軽視されがち
- 企画が通らない。内容を理解してもらえない。
- 経営層からは、トレンドとなっていることについての対応を求められる事がある。
- 経営層がIT・システムについての知識や理解が全く無く、「経営にITを活用すべき」という提案に耳を貸さない点
- 以前の担当役員から、システムのことは 分からないから任せると言われたとき。
- サーバリブレース時に、なぜそれが必要なのかについて理解がされない(動いているのになぜ入れ替えるのか)等
- 事業戦略を効果的に進めるための武器としての ITという認識が薄い。
- 新たなシステム構築への投資に対して、理解を示してくれない。
- 情報セキュリティ・事業継続に対する認識および予算配分
- 経営層は運用管理にまで思いが至らない。システム全般のことがよく判っていないので、システムの概要は説明するも、運用管理までは話が進まない。
- システム運用工数や保守やセキュリティ対策の投資効果
- コンピュータは何でも解決してくれる魔法の箱という幻想がある
- 経営層のITへの理解が希薄

申込み時アンケート結果④

【Q4-1】経営サイドの方：情報システム部門の成果に対して期待するものはなんですか？

- 自主的な運用
- システムの安定稼動
- 自社のシステムを良くする努力を、顧客のシステム構築支援にも使えるようにして欲しい。
- ハード・ソフト上の制約ではなく、実務効率に軸足を置いたシステム構築
- ハードウェア、ソフトウェア、サービスにとらわれずシステムの最適化を考え、業務の可用性と完全性を追求したシステムを構築すること。

【Q4-2】経営サイドの方：その期待は、どのような形で情報システム部門に伝えていますか？

- メールで通知
- ABC徹底
- システム部門の課長レベルに話している
- システム要件定義における参画時に、実務上のニーズをまず明示している。
- 直接検討段階から意見交換して決定する。

申込み時アンケート結果⑤

【Q5-1】情報システム部門の方：情報システム部門の活動方針として、最も重視しているものは何ですか？

- 経営に貢献するマネジメントシステムの運営
- コスト削減を目指すシステムではなく、売り上げに貢献できるシステム作り。
- コスト（導入・運用）
- 業務の継続性維持
- お客様、株主、経営に対して、結果を出すこと。
- コストセンターであるがために、コストを考えた仕事のやり方を考える
- 業務のIT化とコストバランス
- 業務効率向上
- 不明。コンセプトが見えない。
- コミュニケーション
- 安定稼働
- 情報セキュリティの確立
- セキュリティ
- 安定稼働
- 業務部門と連動した、BAに基づく全体最適な企画
- 情報統制 & 費用対効果
- システムをツールとした業務コンサルティング（売上・利益拡大、業務効率化）

申込み時アンケート結果⑤

【Q5-1】情報システム部門の方：情報システム部門の活動方針として、最も重視しているものは何ですか？

- 安心・安全・安定
- システムの安定稼働 コスト削減
- ユーザの立場に立ったシステム運用
- 経済産業省が提示している「企業のIT化ステージ」の第三ステージ(グループ内の全体最適化を目指すこと。)
- ユーザ業務の効率化(本当にシステム化すべきかどうかを含めて業務全体を考えて提案・実現する)
- 資産の有効活用
- 情報システムの安定稼働 セキュリティ
- 情報システムコスト削減、経営に資する情報システムの開発
- リスク対応
- 情報の一元化
- 関係会社も含めた基幹システムの再構築
- 目的意識ある行動
- インフラの安定的な運用
- 生産性の向上
- 自身のスキルの向上と経営側・ユーザ側と強い信頼関係を作ること
- システムの安定稼働

申込み時アンケート結果⑥

【Q5-2】情報システム部門の方：方針を実行していくために、足りないと思うものは何ですか？

